

ノース・ダコタ州：小麦作柄と気象状況

2002年9月17日

2002年9月15日現在

9月15日迄の1週間は気温が5~10度平年を上回り、日中の最高気温は82~90度となり、小麦の枯熟を速めた。最低気温は略40度程度で霜は見られなかった。硬質春小麦の収穫は進み、州全体では90%（昨年：100%、平年：91%）の圃場で完了した。

デュラム小麦の収穫も進み70%で完了（昨年：91%、平年：77%）した。

この週の平均農作業可能数は6.6日であった。

8月1日付けUSDAの春小麦（デュラム小麦を除く）収穫予想では、単位収量は29.0bu/ac（7月1日：31.0、昨年：34.0bu/ac）と7月1日の予想より悪くなった。収穫予想面積6,800,000エーカー（昨年：6,900千エーカー）、収穫量：197,200千ブッシェル（昨年：234,600千Bu）となっている。デュラム小麦の8月1日予想は、単収25.0bu/ac（昨年：26.0bu/ac）、収穫量予想は48,750千ブッシェル（昨年：54,600千Bu）である。

土壌水分：

Topsoil

	Very short	Short	Adequate	Surplus
This week (%)	16	29	52	3
Last week (%)	14	27	54	5
Last year (%)	13	34	50	3
5-yr. Ave. (%)	10	27	57	6

Subsoil

	Very short	Short	Adequate	Surplus
This week (%)	16	30	51	3
Last week (%)	16	30	51	3
Last year (%)	9	28	61	2
5-yr. Ave. (%)	9	26	60	5

小麦生育状況：

	This week	Last week	Last year	5-yr. Ave.
Spring wheat Combined (%)	90	69	100	91
Durum wheat Combined (%)	70	42	91	77

Source: North Dakota Agricultural Statistics Service

州東北地区で収穫された硬質春小麦の品質は、昨年と比較し多少蛋白質は低く、容積重は高い傾向にある。灰分は昨年より低い結果が出ている。東北地区では生育期から登熟期にかけ他の地区より降水量に恵まれ、土壌水分は“適”の圃場が多かった。